

下萩沢遺跡

—宅地造成工事に伴う発掘調査報告書—



平成20年3月

宮城県栗原市教育委員会
株式会社 アズマハウジング

下 萩 沢 遺 跡

—宅地造成工事に伴う発掘調査報告書—

序 文

栗原市は宮城県北西部に位置しています。面積約 800 平方キロメートルに及ぶ市内には、旧石器時代から近世まで数多くの遺跡が所在しています。

本書は栗原市築館地区に位置する下萩沢遺跡の発掘調査報告書です。下萩沢遺跡は縄文時代および古代の遺跡であり、これまでの調査の成果から古代の城柵である伊治城と関連の深い集落であったと考えられています。

今回の調査は宅地造成工事に伴い、事業の主体者である株式会社アズマハウジングの依頼によって栗原市教育委員会が実施したものです。調査の結果、古代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が発見されました。小規模な調査ですが、この遺跡の性格を検討し、また、この時代の栗原の歴史を解明するための資料となるものであります。

最後に、調査および報告書の作成にあたってご指導、ご協力をいただきました宮城県教育庁文化財保護課の皆様をはじめ、調査に参加、ご協力をいただきました関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。

平成 20 年 3 月

栗原市教育委員会

教育長 佐藤光平

目 次

序 文	
目 次	
例 言	
I. 遺跡の位置と地理的、歴史的環境	1
II. 調査にいたる経緯と調査方法	3
III. 基本層序	6
IV. 検出した遺構と遺物	6
1. 積穴住居跡と出土遺物	
2. 掘立柱建物跡と出土遺物	
3. 遺構外出土遺物	
V. 考 察	9
検出した遺構の年代と特徴	
VI. ま と め	10
引用・参考文献	
写 真 図 版	

図 目 次

第1図 栗原市の位置	第5図 SI1001
第2図 下萩沢遺跡と周辺の遺跡	第6図 SI1001出土遺物
第3図 下萩沢遺跡と既調査範囲	第7図 SB1002
第4図 調査区と遺構の位置	

写 真 図 版 目 次

写真図版1 調査区全景 北より	写真図版2 SI1001床面検出状況 西より
SB1002検出状況 北西より	SI1001掘り方埋土除去状況 西より
SB1002北東隅柱断面 東より	SI1001出土土師器甕
基本層（1トレンチ東壁）西より	SI1001出土須恵器高台付环

例　　言

1. 本書は株式会社アズマハウジングによる宅地造成工事に伴う下萩沢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書作成にいたる一連の作業は、調査原因となった事業の主体者である株式会社アズマハウジングからの委託を受け、栗原市教育委員会が行ったものである。
3. 調査は次の要項で実施した。

遺跡名 下萩沢遺跡（遺跡登録番号41067）

所在地 栗原市築館源光94番1号

調査面積 300m²（調査対象面積 1,245m²）

調査期間 確認調査 平成19年5月29日～6月5日

事前調査 平成19年6月6日～6月7日

調査主体者 栗原市教育委員会教育長 佐藤光平

調査担当 栗原市教育委員会文化財保護課 大場亜弥 安達訓仁

調査指導 宮城県教育庁文化財保護課

発掘調査参加者 高橋和智 芳賀雅子 小野寺憲治 白鳥力 小岩猛 菅原修治 菅原弘 菅原次郎
整理作業参加者 芳賀雅子

4. 下萩沢遺跡では平成16年度および平成19年度に国道4号線築館バイパス建設工事に伴い宮城県教育委員会により発掘調査が実施されていることから混乱を避けるため、遺構番号は1001より各遺構に付すこととした。

5. 土層や土器の色調表現は『新編標準土色帖（14版）』（小山・竹原編1994、日本色研事業株式会社）に準拠し、土性区分については国際土壤学会に準拠している。

6. 国土座標は世界測地系を用いている。

7. 図中にある方位は真北を表している。

8. 調査区全体図は1/400、遺構の縮尺については竪穴住居跡平面図を1/60、建物跡平面図を1/100、建物模式図を1/200とし、遺構断面図は1/60とした。また、遺物の縮尺は、土器は1/3とし、鉄製品は1/2とした。なお、断面黒塗りは須恵器である。

9. 遺物写真的縮尺は任意である。

10. 第2図は国土地理院作成1/25,000「築館」と「金成」を複製し用いた。

11. 第3図は旧築館町作成の都市計画図1/2,500を複製し用いた。宮城県教育委員会が平成19年度に実施した国道4号線築館バイパス建設工事に伴う発掘調査の成果資料については、現在のところ未公表であるが、宮城県教育庁文化財保護課に許可を得て調査区および竪穴住居跡の位置を掲載した。

12. 発掘調査及び報告書作成に際し、の方々よりご指導、御助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

佐藤則之、須田良平、山田晃弘、三好秀樹、柳沢和明、尾形祐之、生田和宏（宮城県教育庁文化財保護課）、佐藤敏幸（東松島市教育委員会） 敬称略

13. 本書の執筆、編集は課員の協議を経て主に大場が行い、安達がこれを補佐した。

14. 調査によって得られた資料は、全て栗原市教育委員会（栗原市築館出土文化財管理センター）で保管している。

I. 遺跡の位置と地理的、歴史的環境

宮城県北西部に位置する栗原市は岩手、秋田両県と接している。築館地区はその中の中央に所在し、宮城県北部を南北に貫く奥羽山脈と岩手県から宮城県北東部にかけてのびる北上山地に挟まれた北上



第1図 栗原市の位置

川沿岸低地（仙北平野低地）のうち、北上川流域右岸の一画に位置している。ここは奥羽山脈から次第に標高を減じながら緩やかな起伏をもって南東方向に連なる派生丘陵のほぼ末端部にあたり、なだらかな丘陵地帯や河岸段丘を形成している（宮城県企画部土地対策課 1986）。

下萩沢遺跡はこの丘陵地帯から東の伊豆沼に向かつてのびる築館丘陵上、標高約30mの平坦地に立地しており、現在は、宅地、田地、畠地、山林として利用されている。

本遺跡の周辺には旧石器時代から近世にいたるまでの多数の遺跡が分布する。これまでの調査、研究を参考にして古代についての歴史的環境を記述する。

古代の遺跡は一迫川や二迫川などの河川流域の丘陵や段丘上に多数確認されている。本遺跡の北約3.5kmには国史跡伊治城跡が所在する。これまでの発掘調査により、『続日本紀』にみえる神護景雲元年（767）に律令政府が東北經營のため設置した城柵の一つであり、宝亀11年（780）に伊治公皆麻呂により按察使紀広純、牡鹿郡大領道嶋大橋が殺害されるという事件が起こった「伊治城」^{いじき}であることが判明している（宮城県多賀城跡調査研究所1978～1980 築館町教育委員会1988～2002、2004、2005 栗原市教育委員会2006、2007）。伊治城跡の周辺では多くの集落が確認されている。発掘調査がおこなわれた集落には、木戸遺跡（宮城県教育委員会1980d）、佐内屋敷遺跡（宮城県教育委員会1983）、原田遺跡（宮城県教育委員会1980b 宮城県教育委員会2004 宮城県教育委員会2005a）、下萩沢遺跡（宮城県教育委員会2004 宮城県教育委員会2005a）、鰐沢遺跡（築館町教育委員会2005）、嘉倉貝塚（宮城県教育委員会2002 築館町教育委員会2002 築館町教育委員会2003）（以上築館地区）、山王廻遺跡（一迫町教育委員会1996）（一迫地区）、御駒堂遺跡（宮城県教育委員会1982）、山ノ上遺跡（宮城県教育委員会1980e）、宇南遺跡（宮城県教育委員会1979、1980f）、鶴ノ丸遺跡（宮城県教育委員会1981）、吹付遺跡（宮城県教育委員会2005b）、淀遺跡（宮城県教育委員会2001）、糠塚遺跡（宮城県教育委員会1978）、大門遺跡（宮城県教育委員会1980a）、（以上志波姫地区）、佐野遺跡（宮城県教育委員会1980c）（金成地区）、有賀峰遺跡（宮城県教育委員会1980g）（若柳地区）、長者原遺跡（栗駒町教育委員会1995）、泉沢A遺跡（栗原市教育委員会2006）、水汲遺跡（栗原市教育委員会2007）（栗駒地区）などがある。このうち御駒堂遺跡、山ノ上遺跡では7世紀後半から8世紀前半にかけて関東からの人々の交流や移住を想定させる関東系土師器（村田2000）や住居構造が確認されており、伊治城成立



No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	下萩沢遺跡	集落	縄文・古代	13	舟ノ沢遺跡	散布地	古代	25	難保遺跡	集落	弥生・奈良・平安
2	伊治城跡	城壁・散布地	昭和・古墳・奈良・平安	14	高田山遺跡	散布地	縄文・古代	26	大門遺跡	集落	縄文・奈良・平安・中世
3	栗原寺跡	寺院	古代・中世	15	原田遺跡	集落	縄文・古代	27	狐塚遺跡	空跡	古代
4	尾松遺跡	散布地	古代	16	源光遺跡	散布地	縄文・古代	28	熊谷遺跡	集落	縄文・古代
5	長者原遺跡	集落	古墳前・中・古代	17	佐内屋根遺跡	集落	縄文・奈良・平安	29	鶴ノ丸遺跡	集落・指標	縄文・弥生・近世
6	泉沢A遺跡	集落	古代	18	木戸遺跡	集落	縄文・古代	30	吹付遺跡	集落	古代
7	大仏山古墳群	円墳	古墳後・古代	19	施沢遺跡	集落	縄文・古代・中世	31	宇摩遺跡	集落・指標	縄文・弥生・近世
8	姫塚横六石群	横六石	古墳後	20	黒崎台遺跡	散布地	縄文・古墳・古代	32	御駒堂遺跡	集落	縄文・近世
9	花野遺跡	集落	弥生・古代	21	玉萩台遺跡	散布地	縄文・古墳・古代	33	山ノ上遺跡	集落	縄文・古代
10	大沢横六石群	横六石	古墳後・古代	22	葦倉貝塚	集落	縄文前・弥生・古代	34	淀遺跡	散布地・集落	昭和・古墳・古代・中世
11	堀切長根遺跡	散布地	縄文・古代	23	刈敷治部遺跡	散布地	縄文・古墳・古代	35	大天馬遺跡	散布地	古代
12	其内屋根遺跡	散布地	縄文・古代	24	刈谷苔遺跡	散布地	縄文・古代	36	堂の遺跡	散布地	古代

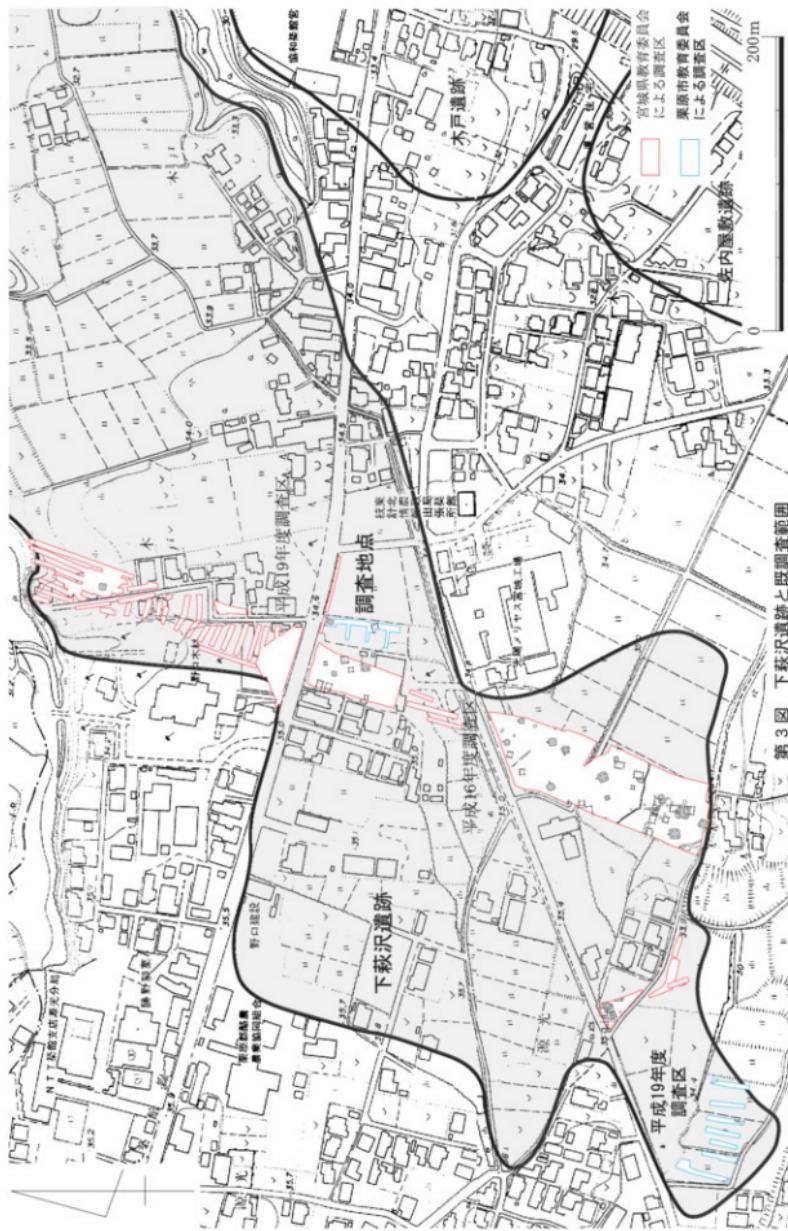
第2図 下萩沢遺跡と周辺の遺跡

以前の栗原地方の状況を考える上で重要である。伊治城が設置された8世紀後半以降になると確認できる集落数は大きく増加する。これらの集落は竪穴住居跡を主体としている。一方、原田遺跡、下萩沢遺跡では伊治城存続期と同時期の掘立柱建物跡、竪穴住居跡が発見され、溝や材木塀を集落の周囲にめぐらせていた可能性が指摘される。さらに、建物の方向を揃えて計画的に配置された建物群があるなど他の集落とは異なる様相を持つことから、伊治城跡と密接なかかわりがあったと考えられている。生産遺跡には須恵器を焼成していた岩ノ沢窯跡（築館地区）や狐塚遺跡（築館町史編纂委員会1976 志波姫町史編纂委員会1976）（志波姫地区）、須恵器と瓦を焼成していた小迫神社窯跡（築館町教育委員会1994）（金成地区）があり、後二者の製品が伊治城に供給されたものと考えられている。このほか9世紀後半以降に須恵器と瓦を焼成した三沢窯跡（古窯址研究会1976）（金成地区）がある。これまで調査が行われた墳墓には二迫川北岸の丘陵上に位置する鳥矢ヶ崎古墳群がある。33基からなる鳥矢ヶ崎古墳群は2基の発掘調査が行われており青銅製の鈎帶金具一式や蘇手刀が発見されている（栗駒町教育委員会1972）。鈎帶金具はほぼそろった状況で確認されており、律令政府とのかかわりを示すものとして特筆できる。二迫川の北側に位置する丘陵の南斜面では大沢横穴墓群や姉歛横穴墓群（築館町史編纂委員会1976）（金成地区）などが確認されており、内陸部における横穴墓の北限線とされている。これらの墳墓や横穴墓の年代は8世紀代と考えられている。なお、7～10世紀の周辺の考古学からみた歴史的な環境については『伊治城跡 嘉倉貝塚』（築館町教育委員会2002）に詳しいので参照願いたい。また、本遺跡の北方約7kmには『吾妻鏡』にみえる栗原寺跡と推定されている地点がある（栗駒地区）。古代末の遺構や遺物は未発見ながら、10世紀前半頃の池跡（宮城県教育委員会1996）や平安時代中期以降の礎石建物跡が発見されており、付近の「仁王田」などからは仏像も発見されている（栗原寺調査団1963）。

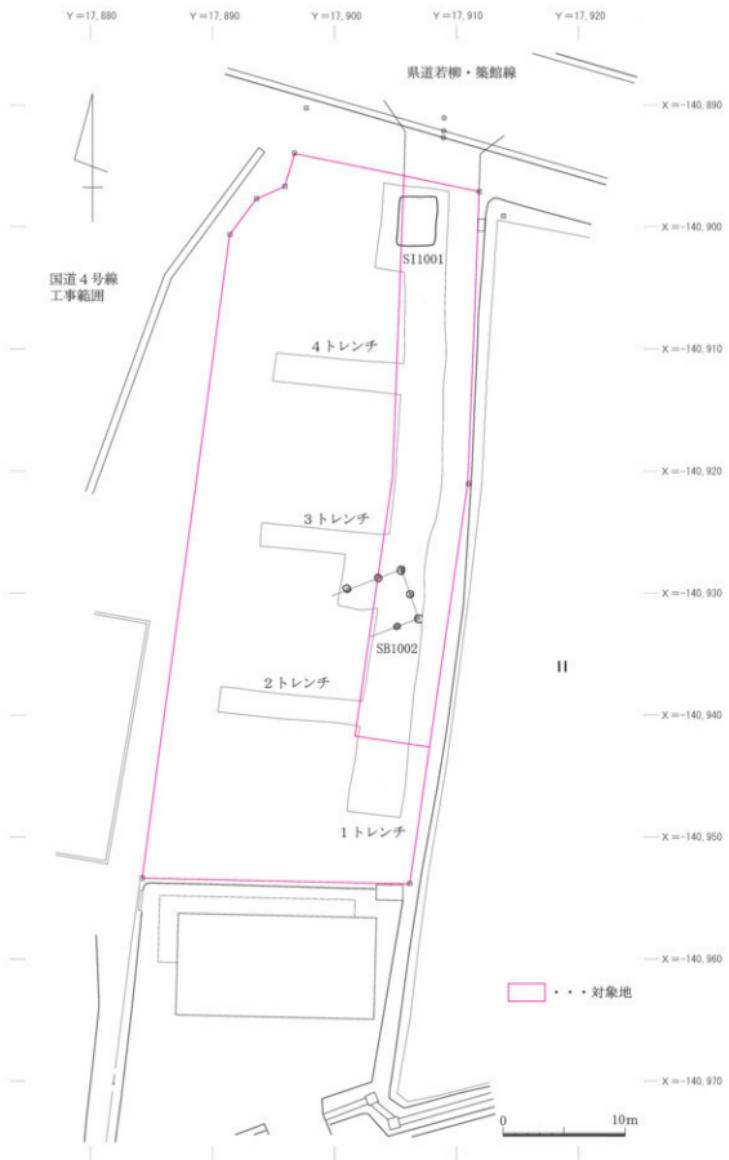
II. 調査にいたる経緯と調査方法

下萩沢遺跡は栗原市築館源光に所在する縄文時代および古代の集落遺跡である。平成19年3月1日付で株式会社アズマハウジングより宅地造成工事に伴う協議書が提出された。対象地は、平成16年度に国道4号線築館バイパス建設に伴い宮城県教育庁文化財保護課により事前調査が行われ、8世紀後半を中心とすると考えられる掘立柱建物跡6棟、竪穴住居跡1軒、竪穴遺構1基が確認されている地点の東側にあたることから、協議の結果、確認調査を実施することとなった。

確認調査は平成19年5月29日から開始した。対象面積は1,245m²であり、宅地内の道路予定部分を中心に調査区を4ヶ所設定した（第4図）。盛土および旧表土を重機で掘り下げ、遺構を確認した際には可能な限り調査区を広げることとした。確認調査の結果、1トレンチ北端で竪穴住居跡1軒、1トレンチ中央付近で掘立柱建物跡1棟を確認した。確認調査で遺構が検出されたことから、事業者、宮城県教育庁文化財保護課、栗原市教育委員会が遺構の保存について協議を行った。その結果、竪穴住居跡は残存状況がよくないことと下水道管の埋設により破壊される可能性が高いことから、事前調査の対象とす



第3図 下裁沢遺跡と既調査範囲



第4図 調査区と遺構の位置

ることとし、掘立柱建物跡については工事による掘削が遺構面まで及ばないことが明らかとなつたため、確認調査にとどめ、柱穴の一部を掘り下げるのみとした。

記録は、調査区については1/100の平面図を作成し、確認した遺構は1/20の平面図と断面図を作成した。デジタルカメラにより撮影を行い、平成19年6月7日に野外調査を終了した。その後、図面、遺物などの整理作業を平成20年3月まで行い、本事業を終了した。

III. 基本層序

調査対象地は調査以前に資材置き場として利用されていたことから、0.38～0.61mの厚さで盛土（碎石及び山砂）が行われていた。これらを除去し、以下の基本層を確認した。

I 層 黒褐色粘土質シルト。水田耕作土。

II 層 黒褐色（10YR 2/2）粘土質シルトで上部に灰白色火山灰ブロックが認められる。厚さ0.07m。

III 層 黒褐色（10YR 2/3）シルトで褐色土粒を若干含む。厚さ0.10～0.16m。遺構掘り込み面。

IV 層 暗褐色（10YR 3/3）シルト。厚さ0.08m。漸移層。

V 層 黄褐色（10YR 5/6）粘土質シルト。地山である。遺構確認作業を実施。

IV. 検出した遺構と遺物

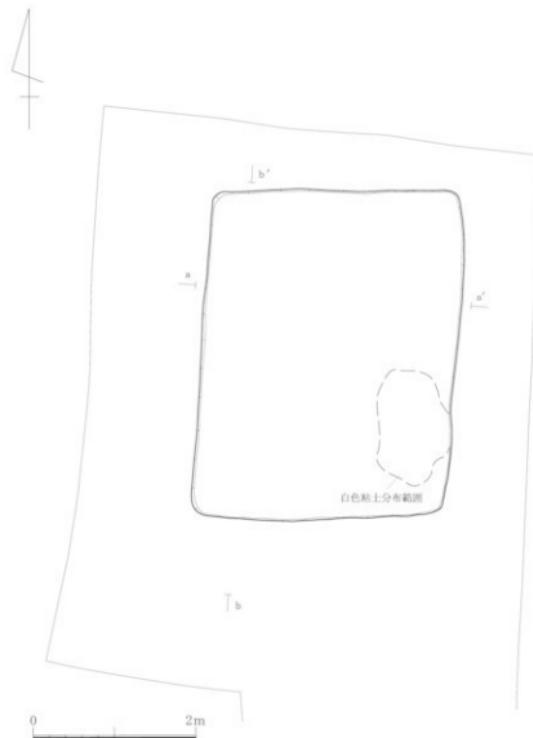
検出した遺構は竪穴住居跡1軒と掘立柱建物跡1棟である。遺構に伴い土師器や須恵器が少量出土した。また、遺構外からは縄文土器、土師器が出土している。

1. 竪穴住居跡と出土遺物

S I 1 0 0 1 (第5、6図)

1トレーンチ北端に位置する。V層上面で検出し、その後の精査で基本層のIII・IV層を掘り込んでいることを確認した。重複関係はない。平面形は隅丸長方形で、規模は南北3.99m、東西3.09mである。方向は西辺で計測するとN-4°-Eである。堆積土は3層ある。いずれも自然堆積で、1層に灰白色火山灰を斑状のブロックで含む。壁はIII～V層を掘り込んで壁としている。床からほぼ垂直に立ち上がり、高さは0.28mを確認した。床面は掘り方埋土を床とし、ほぼ平坦である。延べ床面積は約12m²である。掘り方埋土の厚さは約0.08～0.16mで、埋土はV層の黄褐色粘土が主体であり、黒色粘土質シルトのブロックと炭化物を含む。カマド・柱穴・ピット・周溝などの施設は確認できなかつた。住居南東の床面上に南北1.4m、東西0.9mの範囲で白色粘土ブロックと炭化物を含む黒褐色土層が堆積しており、住居壁際でスサを含む焼けた粘土塊が集中して出土している。

Y=17,905
X=-140,895



X=-140,905
Y=17,910



層	土色	土性	特徴	堆積範囲
1	黒褐色 10YR 2/3	粘土質シルト	灰白色火山灰、暗褐色粘土質シルトを塊状のブロックで含む。黄褐色粘土（V層）を若干含む。 Ⅲ層に類似する。	大別1層
2	黒褐色 10YR 2/2	シルト質粘土	黄褐色粘土（V層）を若干含む。炭化物をわずかに含む。	大別2層
3	暗褐色 10YR 3/3	粘土質シルト	黄褐色粘土粒（V層）を多く含む。	
4	黄褐色 10YR 5/6	粘土	黑色粘土質シルトを塊状のブロックで含む。炭化物を含む。	振り方理土

第5図 SI1001



No	層位	種別	残存	特徴	登録	図版
1	堆積土	土師器壺	口～体部	外：ヨコナデ、ハケヌ、にぶい穂（7.5YR6/4） 内：ヨコナデ、穂（7.5YR6/0）	P1	2
2	床面直上	須恵器高台付壺	1/3	口径16.6cm、底径11.0cm、器高4.8cm 外：ロクロナデ、回転ヘラケズリ、灰N5/0 内：ロクロナデ、灰N6/0	P2	2
3	堆積土	不明鉄製品	不明	管状である 残存長2.2cm、直径0.4cm、厚さ0.06cm 鉄鍛付着	P3	—

第6図 SI1001出土遺物

出土遺物は、床面から須恵器高台付壺（第6図2）、堆積土から土師器壺の口縁部破片（第6図1）及び壺または壺の体部破片が出土している。須恵器高台付壺（第6図2）は、体部下位が回転ヘラケズリにより調整されている。土師器はすべて製作にロクロを用いないものである。土師器壺口縁部（第6図1）はヨコナデおよびハケヌ調整が施されている。土師器壺または壺の体部破片の外表面は、ケズリ調整によるもの、ミガキ調整によるもののがみられる。土師器片のうち1点は須恵器質に焼成されており、外表面はナデ調整が施されている。SI1001の堆積土からは他に、用途不明の管状の鉄製品（第6図3）、スサを含む焼けた粘土塊が出土している。

2. 掘立柱建物跡と出土遺物

S B 1 0 0 2 (第7図)

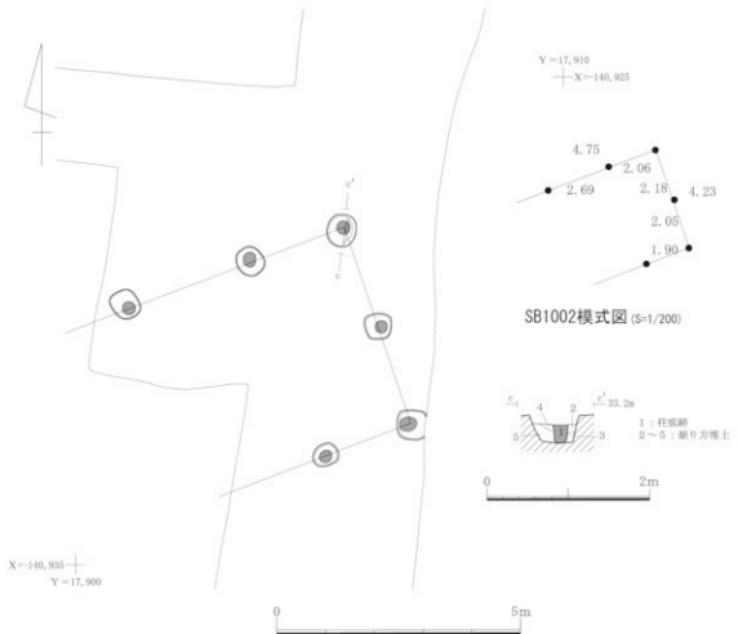
1トレント中央のV層上面で検出した。桁行2間以上、梁行2間の東西棟の可能性が高い側柱建物である。重複関係はない。柱穴は6ヶ所で確認した。平面規模は、桁行を北側柱列で計測すると総長4.75m以上、柱間寸法は東より2.06m、2.69mである。梁行は東妻で計測すると総長4.23m、柱間寸法は南より2.05m、2.18mである。方向は北側柱列で計測するとE-20.8°-Nである。

柱穴は一辺0.59mから0.67mのやや不整な隅丸方形であり、深さは断ち割りを行った北東隅柱で0.35mである。埋土はV層の黄褐色粘土ブロックを含む黒色粘土質シルトやにぶい黄褐色粘土質シルトである。柱痕跡は6ヶ所で確認した。径0.26~0.35mである。堆積土は黒色粘土質シルトであり、炭化物をわずかに含むものがある。

遺物は出土しなかった。

3. 遺構外出土遺物

表土から縄文土器片および土師器の破片が各1点出土している。いずれも小片であり、詳細は不明である。



第7図 SB1002

V. 考察

検出した遺構の年代と特徴

(1) S I 1 0 0 1

S I 1 0 0 1は平面形が隅丸長方形で規模が南北3.99m、東西3.09mの竪穴住居跡である。堆積土に灰白色火山灰が含まれることから古代の遺構である。カマドあるいはそれに伴うような焼け面、掘り込みなどは検出されなかった。住居南東の床面上で白色粘土ブロックと炭化物を多量に含む黒褐色土層がみとめられ、特に住居の壁際でスサを含む焼けた粘土塊が集中して出土した。これらは床面上に堆積していることから、住居廃絶前後の時期に堆積したものと考えられる。このことから、カマドが破壊され、その構造材が廃棄された可能性も考えられる。

S I 1 0 0 1からは須恵器、土師器、鉄製品が出土している。このうち年代を検討できる資料は床面から出土した須恵器高台付坏1点のみである（第6図2）。平底で体部から口縁部にかけてほぼ直線的に外傾し、底部の縁に近い部分に短い高台が付く。体部下位に回転ヘラケズギリが施されているが、底部

の調整は不明である。この高台付壺と器形が類似する資料として加美町壇の越遺跡 S I 1280 住居跡（加美町教育委員会 2004）出土の高台付壺があげられる。壇の越遺跡 S I 1280 住居跡出土の土器群の年代は 8 世紀前期後半に位置づけられており、S I 1001 出土の須恵器高台付壺もこの時期のものである可能性が考えられる。S I 1001 出土の土師器は、すべて堆積土からの出土である。ヨコナデ、ハケメ調整の甕の口縁部破片（第6図1）とケズリやミガキ調整の施される甕または甕の体部破片が数点出土しているが、製作にロクロを用いたものはみとめられない。

出土資料が少ないため、詳細を検討することはできないが、以上のことから S I 1001 の年代は 8 世紀中葉前後である可能性が考えられる。

(2) S B 1002

S B 1002 は桁行 2 間以上（4.75m 以上）、梁行 2 間（4.23m）の東西棟の可能性が高い建物跡である。出土遺物がないことから詳細な年代は不明であるが、掘り込み面である可能性が高い黒褐色粘土質シルトの上面に灰白色火山灰が確認できること、柱穴の平面形がやや不整な隅丸方形で一辺 0.6～0.7 m の規模をもつことや埋土の状況から古代のものと考えられる。

西側に隣接する平成16年度調査の北区においては掘立柱建物跡 6 棟が確認されている。平面形は桁行 1 間、梁行 1 間のものが 4 棟と多く、残りの 2 棟は桁行 3 間、梁行 2 間で間仕切りをもつ南北棟 1 棟と桁行 2 間以上、梁行 2 間の東西棟 1 棟である。これらは重複関係をもたず調査区内に散在して分布していることが確認されている（宮城県教育委員会2005a）。

平成16年度調査北区で検出された建物の方向をみると、おおよそ真北方向のもの 4 棟と北で東側に振れるもの 2 棟がある。これらの建物は、方向を基準とすると 2 群に分類されると考えられる。しかし、S B 1002 は北で西側に振れることから上記の建物群とは方向が異なる。建物の方向の違いが時期差によるものか、あるいは地形に関係するものなのかはさらに検討が必要であり、各建物の詳細な関係は周辺の調査とその成果を踏まえたうえで検討されるべき課題であると考えられる（注）。

註 平成19年 6 月に宮城県教育委員会が実施した国道 4 号線築館バイパス建設工事に伴う調査において、今回の調査地点の約 50m 東側で柱穴 1 基が確認されたことから、建物の分布域はさらに東側にもつづくと考えられる。

VII. まとめ

- 1 下荻沢遺跡は築館丘陵上、標高約 30m の平坦地に立地する縄文および古代の集落跡である。
- 2 今回の調査では古代の竪穴住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 1 棟を検出した。これにより、これまで確認されている範囲よりもさらに東側に遺構が分布することが明らかとなった。
- 3 竪穴住居跡の年代は出土遺物から 8 世紀中葉前後である可能性が考えられる。
- 4 今回の調査で検出した竪穴住居跡および掘立柱建物跡の性格やこれまでの調査で検出されている遺構群との関係については、今後さらに調査を重ねていく中で検討していくべき課題である。

引用・参考文献

一迫町教育委員会1996『国史跡 山王岡遺跡I』

加美町教育委員会・宮城県古川産業振興事務所2004『塙の越遺跡V—宮崎北部地区県営は場整備事業に伴う平成12年度
発掘調査報告書一』加美町文化財調査報告書第1集

栗駒町教育委員会1972『宮城県栗原郡栗駒町鳥矢ヶ崎古墳調査概報』

栗駒町教育委員会1995『長者原遺跡』栗駒町文化財調査報告書第3集

栗原市教育委員会2006『泉沢八遺跡』栗原市文化財調査報告書第2集

栗原市教育委員会2006、2007『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第1、4集

栗原市教育委員会2007『水吸遺跡』平成19年度宮城県遺跡調査成果発表会要旨 pp. 69~72

古窯跡研究会1976『宮城県に於ける窯跡の分布と問題点』『陸奥国古窯跡群II』古窯跡研究会研究報告第4冊pp. 91~92

志波姫町教育委員会2005『御駒堂遺跡』志波姫町文化財調査報告書第1集

志波姫町史編纂委員会1976『奈良時代』、『名所・旧蹟』『志波姫町史』pp. 127~128、760~763

築館町教育委員会1988~2001、2004、2005『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第1~14、17、19集

築館町教育委員会2002『伊治城跡・嘉倉貝塚』築館町文化財調査報告書第15集

築館町教育委員会2003『嘉倉貝塚』築館町文化財調査報告書第16集

築館町教育委員会2005『巖沢遺跡』築館町文化財調査報告書第18集

築館町史編纂委員会1976『古墳時代中期の文化』、「栗原郡内の生産遺跡」、図版3 志波姫町狐塚遺跡出土の須恵器『築
館町史』pp. 174~177、pp. 232~234、p265

東北古代土器研究会福島・宮城支部2005『東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編—』(宮城) 研究報告2

宮城県企画部土地対策課1986『土地分類基本調査 若柳・一閑』

宮城県教育委員会1978『糠塚遺跡』宮城県文化財発掘調査略報(昭和52年度分) 宮城県文化財調査報告書第53集

宮城県教育委員会1979『宇南遺跡』宮城県文化財調査報告書第59集

宮城県教育委員会1980a『大門遺跡』東北新幹線関係遺跡調査報告書II』宮城県文化財調査報告書第62集pp. 273~306

宮城県教育委員会1980b『原田遺跡』東北自動車道遺跡調査報告II』宮城県文化財調査報告書第63集pp. 409~424

宮城県教育委員会1980c『佐野遺跡』東北自動車道遺跡調査報告II』宮城県文化財調査報告書第63集pp. 425~546

宮城県教育委員会1980d『木戸遺跡』東北自動車道遺跡調査報告書III』宮城県文化財調査報告書第69集pp. 423~460

宮城県教育委員会1980e『山ノ上遺跡』東北自動車道遺跡調査報告書IV』宮城県文化財調査報告書第69集pp. 461~499

宮城県教育委員会1980f『宇南遺跡』東北自動車道遺跡調査報告V』宮城県文化財調査報告書第69集pp. 500~556

宮城県教育委員会1980g『有賀遺跡』東北自動車道遺跡調査報告VI』宮城県文化財調査報告書第69集pp. 557~589

宮城県教育委員会1981『鶴ノ丸遺跡』東北自動車道遺跡調査報告V』宮城県文化財調査報告書第81集pp. 353~500

宮城県教育委員会1982『御駒堂遺跡』東北自動車道遺跡調査報告書IV』宮城県文化財調査報告書第83集pp. 307~570

宮城県教育委員会1983『佐内星敷遺跡』東北自動車道遺跡調査報告書V』宮城県文化財調査報告書第93集pp. 289~546

宮城県教育委員会1996『栗原寺跡』『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第169集pp. 123~142

宮城県教育委員会2001『淀遺跡』『名生館遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第187集pp. 151~154

宮城県教育委員会2002『嘉倉貝塚』宮城県文化財調査報告書第192集

宮城県教育委員会2004『築館町下萩沢遺跡 原田遺跡 現地説明会資料』

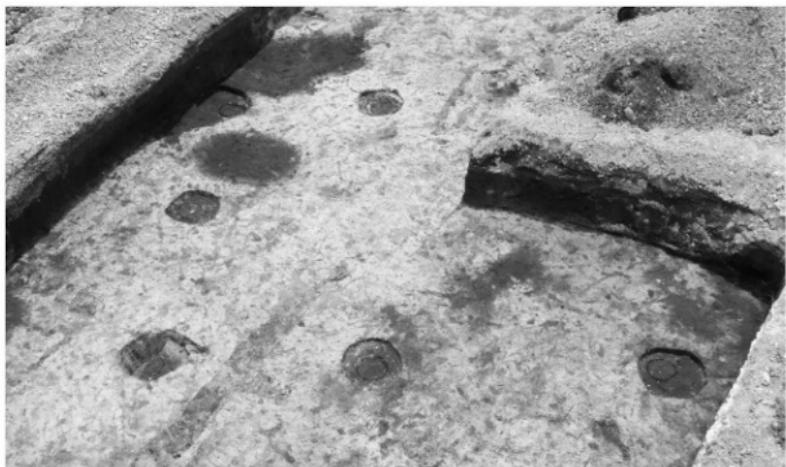
宮城県教育委員会2005a『下萩沢遺跡・原田遺跡の調査成果の概要』『第31回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』pp. 287~292

宮城県教育委員会2005b『吹付遺跡』『塙の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第202集pp. 85~90

宮城県多賀城跡調査研究所1978~1980『伊治城跡I~III』多賀城跡関連遺跡発掘調査報告書第3~5冊

村田晃一2000『飛鳥・奈良時代の陸奥北辺—移民の時代—』『宮城考古学』第2号 宮城県考古学会pp. 45~80

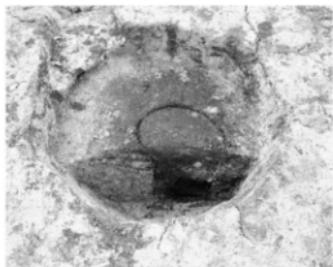
栗原寺調査団1963『栗原寺の諸問題—栗原寺調査中間報告一』『栗駒町史』pp. 1135~1147



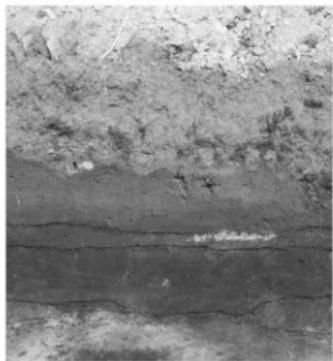
SB1002 検出状況 北西より



調査区全景 北より



SB1002 北東隅柱断面 東より



基本層（1トレンチ東壁） 西より



SI1001 床面検出状況 西より



SI1001 挖り方埋土除去状況 西より



SI1001 出土土師器壺



SI1001 出土須恵器高台付壺

写真図版 2

報 告 書 抄 錄

栗原市文化財調査報告書第6集

下萩沢遺跡

宅地造成工事に伴う発掘調査報告書

平成20年3月17日 印刷

平成20年3月21日 発行

発行 宮城県栗原市教育委員会

〒987-2215

宮城県栗原市築館高田二丁目1番10号
TEL 0228-23-2228 FAX 0228-23-2231

印刷 南部屋印刷株式会社

〒987-2215

宮城県栗原市築館高田一丁目7番36号
TEL 0228-22-2131 FAX 0228-22-2175
